

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

ナシのハダニ類の防除対策の徹底について



ハダニ類

ナシのハダニ類の発生が、平年より多くなっています。また、福岡管区气象台が7月27日に発表した九州北部地方の1か月予報によると、向こう1か月の気候は、「気温が平年より高く、平年と同様に晴れの日が多い」と予想され、ハダニ類の発生に好適な条件が続きます。

このまま発生が増加すると早期落葉し（図1）、果実品質の低下及び来年の花芽等への影響が懸念されます。そのため、下記事項を参考に防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いいたします。

記

1. 発生状況

7月19日に実施した定期調査において、露地栽培でのハダニ類の発生葉率は11.0%（平年1.7%、前年1.2%）と平年より高く、トンネル栽培においても発生葉率が9.0%と高かった（表1）。

表1 ナシ定期調査におけるハダニ類の調査園地別発生葉率（単位：%、令和5年7月19日調査）

調査地点	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均		発生圃場率 (%)
										本年	平年	
露地栽培	6	2	11	10	26	-	-	-	-	11.0	1.7	100
トンネル栽培	-	-	-	-	-	0	0	8	28	9.0	-※	50

※トンネル栽培の平年値無し



図1 ハダニ類が加害し早期落葉したナシ園（2017年撮影）

2. 防除対策

- 1) ハダニ類は、寄生密度が高くなると防除が困難となるため、低密度（寄生葉率10%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5~1頭未満）からの防除を徹底する。
- 2) ハダニ類は、薬液のかかりにくい葉の込み合ったところなどにも寄生しているため、かかりムラが無いように丁寧に散布作業を行う。また、SS散布時に薬剤の到達しにくい園の外周部で発生が多い園地が散見されるため、手散布などで対応する。
- 3) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、表2のIRACコードを参照して同系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。
- 4) 薬剤散布の際は、収穫前日数等の農薬安全使用基準を遵守するとともに、周辺作物等へのドリフト防止などの安全対策に努める。

表2 夏季～秋期に使用するナシのハダニ類に対する主要な防除薬剤¹⁾

IRACコード	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	本剤の使用回数	備考
6	コロマイト水和剤	2,000倍	前日まで	1回	
10B	バロックフロアブル	2,000倍	14日前まで	2回以内	8月下旬以降の使用とする
20B	カネマイトフロアブル	1,000倍	前日まで	1回	
21A	サンマイト水和剤	1,000倍	21日前まで	1回	
21A	ダニトロンフロアブル	1,000倍	14日前まで	1回	
21A	ピラニカ水和剤	1,000倍	14日前まで	1回	
23	ダニゲッターアロアブル	2,000倍	前日まで	1回	新梢伸長停止期以降の使用とする。有機リン剤と混用及び近接散布（10日以内）はしない
25A	スターマイトフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	
25A	ダニサラバフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内	
25B	ダニコングフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	
33	ダニオーテフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	

- 1) 表中の農薬登録情報は令和5年7月31日現在のものであるため、薬剤の使用にあたっては必ず最新情報を確認する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

防除のてびき掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html>

防除セQRコード^{*} てびきQRコード^{*}

